



グルコース

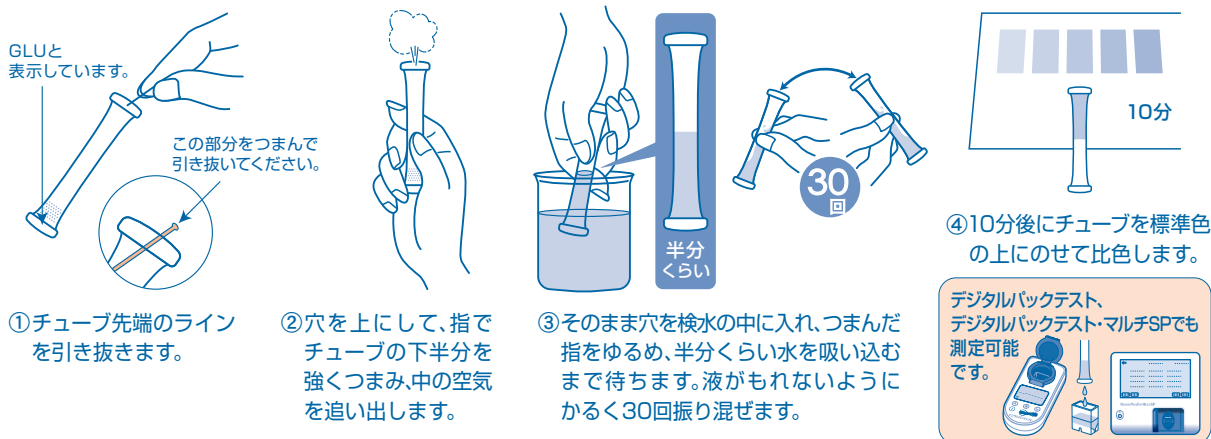
型式 WAK-GLU

酵素を用いた4-アミノアンチピリン比色法による
4-Aminoantipyrine Visual Colorimetric Method with Enzyme

主試薬 酵素と4-アミノアンチピリン

測定範囲 グルコース 0~2 mg/100mL

測り方



比色と測定値の読み方

指定時間後にチューブ内の水の色を標準色と比べ、一番近い色の値がその検水の測定値になります。標準色の色と色の間の場合は、だいたいの中間の値を読んでください。

パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

応急措置

内容物が目に入ってしまったら → すぐに多量の水で洗い流してください。
内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。
内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。
内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。

保管

ラミネート包装を開封した後は、保存袋に入れ、なるべく早くご使用ください。特に夏場や梅雨時には保存状態より数日で試薬が劣化することもあります。
チューブ内の試薬は比較的熱に弱い性質があります。30℃以上の高温や多湿にご注意ください。長時間35℃以上の高温にさらされると発色が弱くなります。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。
それ以外の場合は、チューブはそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。

試薬に関するお知らせ

本製品は、取扱者へのSDSの提供を義務づけた「PRTR法」、「労働安全衛生法」および「毒物及び劇物取締法」には該当しません。



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

〒145-0071 東京都大田区田園調布5-37-11
TEL:03-3721-9207 FAX:03-3721-0666
<http://kyoritsu-lab.co.jp> kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp

パケットテスト グルコース

特徴

この製品は、酵素法を用いており、醸造分野など様々な検水中のグルコース(ぶどう糖)を簡単な操作で測定することができます。

細かい測定値が知りたい場合は、デジタルパケットテスト(型式 DPM2-GLU)、デジタルパケットテスト・マルチSP(型式 DPM-MTSP)をご利用ください。なお、パケットテストとは測定範囲、反応時間、共存物質の影響が若干異なりますのでお問い合わせください。

注意

1. 発色時のpHは、約7です。pHが6～9の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
2. 100mg/100mLのグルコース標準液では、標準色の「2」より強く発色します。高濃度が予想される場合には、あらかじめ希釈してから測定してください。
3. 検水の温度は20～30℃で測定してください。水温が20℃より低いと発色に時間がかかります。
4. 1回で検水をチューブの半分近くまで吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を追い出し、もう一度やりなおしてください。
5. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
6. 比色は屋光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
7. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の水がもれなくなります。

共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

100 mg/100mL 以下は影響しない	・・・	Al ³⁺ 、B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、陽イオン界面活性剤、くえん酸、こはく酸、酒石酸、スクロース、フェノール、フルクトース、ラクトース
50 mg/100mL	//	・・・ Mn ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Ni ²⁺ 、NO ₂ ⁻ 、陰イオン界面活性剤、シリカ
20 mg/100mL	//	・・・ でんぷん
10 mg/100mL	//	・・・ Co ²⁺ 、Cr ³⁺
5 mg/100mL	//	・・・ Cu ²⁺ 、Fe ³⁺
2 mg/100mL	//	・・・ Ag ⁺ 、CN ⁻ 、Cr ⁶⁺ (クロム酸)、ガラクトース
1 mg/100mL	//	・・・ マンノース
少しでも影響する	・・・	Fe ²⁺ 、残留塩素、過酸化水素、マルトース

海水は発色に影響しませんが、濁りを生じます。

残留塩素や過酸化水素などの酸化性物質によっても発色する場合があります。

また、還元性物質が発色を弱める場合があります。